

黒はわが今生の色秋の風

藤田湘子

「わが」と自分を曝け出せるのは俳句の強みである。他人が何と言おうと、自分の好みなのだから問題にはならない。いや、あれこれ文句は言わせない。

この句は、第七句集『去來の花』に収められているが次の第八句集名はたった一字の『黒』。この時期「黒」にこだわっていたのである。湘子の第一句集名は『途上』の二字。これは、師秋櫻子に序文をお願いに行った時、「題名は二文字がよいよ」と、知恵を授かったから。つまり師秋櫻子の潔癖性から脱却し、清濁併せ呑む懐の深さを求めている年代ゆえ、「黒」にこだわった。

あるいは後年、墓所を小田原の早雲禅寺に求めたのも、墨染の衣の色に惹かれていたからとも考えられる。

1984年(559.08作) 第七句集『去來の花』 鑑賞・轍郁摩